

はじめに

金沢大学附属中学校

校長 諸岡 康 哉

現代社会は、年々多様化しグローバル化が進んできています。また、社会の変化も早く、国をはじめ様々なレベルで時代に対応した教育政策、教育改革が進められてきています。本年、3月には学習指導要領、幼稚園教育要領が改訂され、「生きる力」を育てていくことがひきつづき求められています。本校においては、21世紀を担う生徒の育成を目指して実践研究に取り組んできましたが、一昨年からは「共に学ぶ生徒の育成を目指して」という主題を設定し、研究を進めてきました。本校は、附属幼稚園、附属小学校、附属高等学校が隣接しており、同じ平和町キャンパスにあります。また、附属小学校から多くの生徒が入ってきますし、附属高校へも本校から多くの生徒が進学しています。こういった条件を生かして、昨年度から異学年や異校種の交流を進めてきました。同一クラスや同一学校だけの学びでなく、回数は少なくとも異校種の児童・生徒と交わったり、共に学んでいく体験は貴重でもあり、意義があると考えています。こういった体験が日常の同一学年での授業にもよい影響を与えていくものでもあり、近年問題となってきた異校種間の接続を滑らかにしていく上でも意味があるものにとらえております。しかし、異校種間で授業をするためには様々な問題があります。授業時間の調整や授業実施のための打合せ、教員間の相互理解など、まだまだ克服しなければならない課題を抱えております。またこういった授業にとりくんだ先行実践や先行研究はほとんどなく、手探りの状態で研究を進めてきました。研究発表会では、今までの取り組みを報告すると共に、授業の一端を公開し、皆様方の忌憚のないご意見やご示唆をいただければと存じます。

最後になりましたが、教育研究発表会の開催にあたり、ご支援をいただきました石川県教育委員会、金沢市教育委員会に対し厚くお礼申し上げます。また、各教科別等分科会で助言者及び司会者をお引き受けくださいました公立中学校および金沢大学学校教育学類、金沢大学附属学校園の諸先生方に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年11月21日